

(3) 市町村財政比較分析表(普通会計決算)

平成22年度

兵庫県南あわじ市

人口	51,450人 (H23.3.31現在)	実収	赤字	比率	- %
面積	229.23 千円	通算	結算	赤字	比率
入出	26,721,987 千円	実収	実費	赤字	比率
歳入	25,892,713 千円	将来	将来	負担	比率
歳出	717,209 千円	市	町	村	類型
標準	16,914,441 千円	(年	度	毎)
財政	38,759,508 千円	H18	- 0	H19	- 0
現在		H21	- 0	H22	- 0

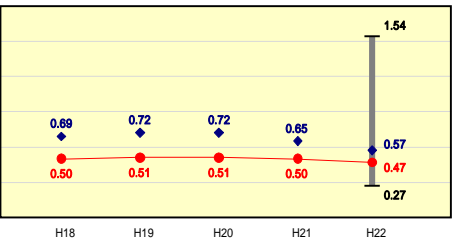


市町村類型とは、人口および産業構造等により全国の市町村を35のグループに分類したものである。当該団体と同じグループに属する団体を類似団体と言う。平成23年度中に市町村合併した団体で、合併前の団体ごとの決算に基づき(実費公債費比率及び将来負担比率を算出して)いない団体については、グラフを表記しない。充当可能財源等が将来負担額を上回っている団体については、将来負担比率のグラフを表記しない。類似団体内平均値は、充当可能財源等が将来負担額を上回っている団体を含めた加重平均であるため、最小値を下回ることがある。*人件費・物件費等の状況の決算額は、人件費、物件費及び維持補修費の合計である。ただし、人件費には事業費支弁人件費を含み、退職金は含まない。

財政力

財政力指数 [0.47]

類似団体内順位 29/49 全国平均 0.53 兵庫県平均 0.63

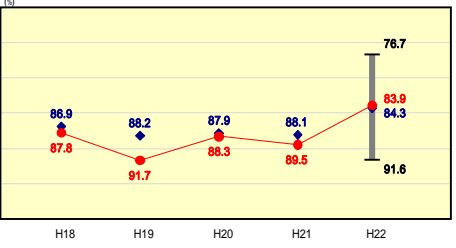


財政力指数の分析
ここ数年、数値はほぼ横ばいで、類似団体平均と比較して低い状況にある。長引く景気低迷や少子高齢化、また都会への人口流出など種々の要因を考慮すると、今後しばらく税収の大幅な増加は期待できない。このため、「第2次南あわじ市行政改革前期実施計画(以下、前期実施計画という。):「財政健全化計画」に基づき、定員管理・給与等の適正化、補助金の整理統合、内部管理経費の見直し等による歳出削減を引き続き徹底するとともに地方税の徴収強化、使用料・手数料の見直し等により歳入確保に努める。

財政構造の弾力性

経常収支比率 [83.9%]

類似団体内順位 22/49 全国平均 89.2 兵庫県平均 91.8

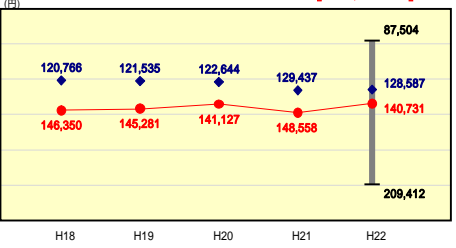


経常収支比率の分析
類似団体平均と比較すると前年度に比べ5.6%改善したことにより、やや良い状況となった。これは、前年度と同様に普通交付税、臨時財政対策債が増額となったことや経常経費を減少させたことによる。今後も「前期実施計画」・「財政健全化計画」に基づく義務的経費の削減、特に起債の抑制や繰上償還による公債費の軽減に努め、更なる改善を目指す。また、今後さらに増大する恐れのある下水道事業補助金についても、建設事業費の抑制及び使用料等の見直し、施設管理経費削減のための委託業務等の見直しにより、効果的な管理体制の構築に取り組む。

人件費・物件費等の状況

人口1人当たり人件費・物件費等決算額 [140,731円]

類似団体内順位 36/49 全国平均 114,985 兵庫県平均 112,143

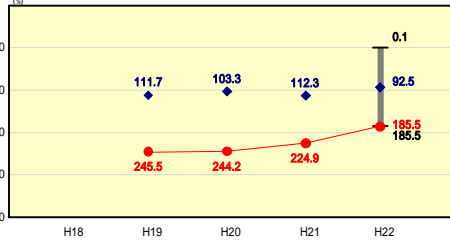


人口1人当たり人件費・物件費等決算額の分析
合併に伴い旧町の施設を多く抱え、施設の維持管理経費が高んでいること等により、類似団体平均より悪い状況にある。しかし、指定管理者制度導入の促進や行政評価による事業の見直しなど、経費削減の効果も少しずつ表れてきていることから、今後より一層の経常経費の削減に努める。

将来負担の状況

将来負担比率 [185.5%]

類似団体内順位 49/49 全国平均 79.7 兵庫県平均 127.7

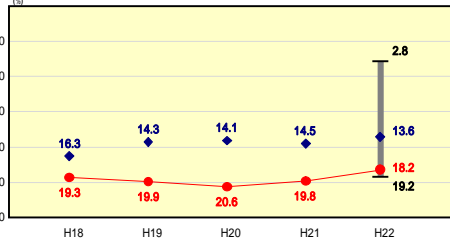


将来負担比率の分析
類似団体平均と比較すると非常に悪い水準にある。合併前から生活基盤整備のために発行してきた多額の地方債と、事業経過年数の短い下水道事業において、料金収入が少なく赤字補てん的な繰上償還が多くなっていることが主な要因である。しかし、新たな起債を最小限に抑制し繰上償還を計画的に実施したこと等により、前年度と比べると39.4%の改善が見られた。今後も地方債残高の減少を図り、下水道事業については建設事業費の抑制及び使用料等の見直し、施設管理経費の削減等により健全経営に努め、後世代への負担軽減に取り組む。

公債費負担の状況

実質公債費比率 [18.2%]

類似団体内順位 47/49 全国平均 10.5 兵庫県平均 12.7

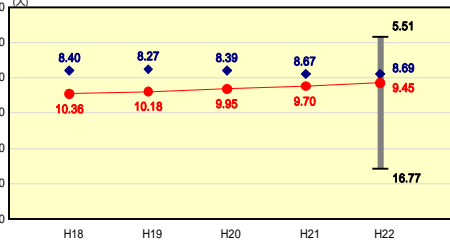


実質公債費比率の分析
下水道事業など過去の大型事業による地方債の元利償還金が増加傾向にあり、類似団体平均と比較すると非常に悪い状況にある。しかし、「財政健全化計画」に基づく起債の抑制及び定期的な繰上償還の実施により、平成20年度決算をピークに改善に転じ、今年度は前年度に比べ1.6%の改善が見られた。平成24年度決算時に比率を18.0%未満とする計画も1年前倒しの平成23年度決算時に達成できる見込みである。

定員管理の状況

人口千人当たり職員数 [9.45人]

類似団体内順位 37/49 全国平均 7.24 兵庫県平均 7.02

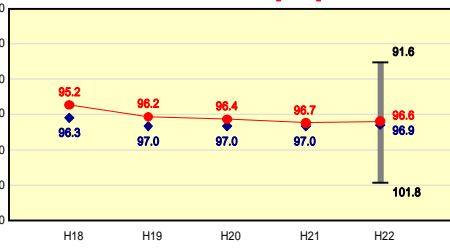


人口千人当たり職員数の分析
「定員適正化計画」に基づき、新規採用者を退職者の1/2以内に抑制してきたことにより、平成17年4月1日で661人であった職員数は平成23年4月1日で572人となり、89人減少しているものの、類似団体平均と比較すると人口1,000人当たり0.76人多い。平成22年度から平成26年度までの5年間を計画期間と策定している「第2次南あわじ市定員適正化計画」により今後一層の定員管理に努め、平成30年4月1日で市全体の職員数を500人以内とできるよう取り組む。

給与水準 (国との比較)

ラスパイレズ指数 [96.6]

類似団体内順位 20/49 全国市平均 98.8 全国町村平均 95.3



ラスパイレズ指数の分析
給料表及び管理職手当・地域手当の見直し、55歳昇給抑制等の取り組みにより、類似団体平均と比較するとやや良い状況にある。今後も適正な人事配置と行政効率の良い組織づくりにより、時間外勤務手当の縮減を図るなど、一層の給与適正化に努める。